



相模原市南区

無作為抽出型区民討議会
わいわいみんなで語ろう！ Part 7

まるまる

～南区〇〇診断～

開催結果報告書

《主 催》

相模原市南区区民会議
相模原市南区役所

《運営協力》

南区若者参加プロジェクト実行委員会

1 事業概要

(1) 報告書の位置付け

当報告書は、相模原市南区区民会議と相模原市南区役所が主催した「わいわいみんな
で語ろう！Part7～南区〇〇診断～」の開催までの経緯や討議の結果をまとめたもので
す。

(2) 開催の目的

この討議会は、南区のめざす将来像である「湧きおこる7つの風 響きあう南区」の
実現に向けた取組を推進するにあたり、幅広い世代の区民意見を聴取することを目的と
して開催しました。

(3) 無作為抽出型区民討議会について

区民ニーズに対応した行政サービスの提供と、区の個性や特徴を活かしたまちづくり
を進めていくためには、区民の皆様や各種団体との協働が重要であることから、幅広い
意見を聴取でき、かつ、区民の皆様がまちづくりに参加するための手法として、無作為
抽出型討議会を採用しました。

この手法の最大の特徴は、公募による募集と異なり、参加者が無作為で選ばれるため、
限られた特定の人々の集団ではなく、ほとんどの場合がテーマに関して直接の当事者では
ないところにあります。このような人が少人数による話し合いにおいて他の参加者の意
見を十分に聴き、お互いの体験や視点を尊重しながら合意形成された意見は、利益誘導
や専門家の意見のように偏ったものではなく、サイレントマジョリティー（一般市民の
声無き声）を抽出できる有効な方法とされています。

なお、相模原市では、平成23年に「相模原市南区区ビジョン」の検討過程において、
南区が初めて無作為抽出型討議会を開催し、今回で6回目の開催となりました。

〔参考文献：「市民討議会運営マニュアル2010（（社）日本青年会議所）」〕

(4) 年齢制限、抽出の割合について

一般的な無作為抽出型討議会と同様に、16歳以上の方を対象として年齢の制限は設
けていませんが、今回の討議テーマは地域活性化のための取組方法の検討を目的とし
ているため、参加を呼び掛けるに当たり、各年代の抽出割合を調整しました。



2 事業経過

(1) 開催の主体

この討議会の主催は南区区民会議と相模原市南区役所ですが、南区区民会議の検討テーマから発足した南区若者参加プロジェクト実行委員会（以下、「若プロ」という。）の委員と区民会議委員が運営委員会を組織し、イベントの企画・運営をしました。

(2) 開催方法の特徴

ア 年齢制限

南区における討議会では、テーマに合わせて年齢制限や抽出年代の割合を調整しています。第1回討議会は年齢制限を設けなかったため60歳以上の参加者が多くなり、第2回は16歳から39歳と年齢制限を設けた結果、参加者が大幅に減少する結果となりました。これらの開催結果から、第3回は16歳から49歳まで2,000名、50歳以上を1,000名と抽出割合を変更しました。

第4回及び第5回は、「世代間交流促進のための仕組みづくり」という検討テーマから、50歳以上をシニア世代、26歳～49歳を働く世代・子育て世代、16歳～25歳を若者世代として、これまでの開催結果から、バランスよく参加者が集まるよう年代ごとの抽出数を調整しました。

なお、第5回については、第3回及び第4回開催時の参加者から、南区若者参加プロジェクト実行委員会及び南区区民会議の情報提供を希望した10代から40代までの27名を抽出し、参加の依頼を行いました。

今回の第6回についても、これまでの開催結果から、バランスよく参加者が集まるように年代ごとの抽出数の調整をしました。また、年代に加え7地区の抽出人数が同数になるようにしました。

	討議テーマ	抽出年齢	抽出件数	承諾者数
第1回	①南区の魅力的なまちづくりとは？ ～私が南区を選んだ理由と魅力的なまち 南区に必要なものは～ ②高まる地域コミュニティの役割！ 今必要とされる地域力とは？ ～地域のきずなを支える自治会をより 魅力的なものとするには～	16歳以上	3,000名	103名
第2回	若い世代のまちづくりへの 参加促進方策	16歳から39歳	3,000名	29名
第3回	①若い世代が「住んでみたい、住み続 けたいと思う町」 ②若い世代が参加しやすい地域活動	16歳～49歳 50歳～	2,000名 1,000名	71名
第4回	世代間交流促進のための仕組みづくり ①まちづくりってなんだろう？ ②〇〇〇をブラッシュアップ！	16歳～24歳 25歳～49歳 50歳～	1,500名 1,000名 500名	58名
第5回	世代間交流促進のための仕組みづくり	16歳～24歳 25歳～49歳	1,600名 1,000名	61名 (5名)

		50歳～ (16歳～49歳) [※]	400名 (27名)	
第6回	南区〇〇診断 地域活性化って何だろう！～どうやっ たらできる？～	16歳～24歳 25歳～49歳 50歳以上	1,600名 1,080名 400名	45名

※()内は過去参加者

イ 無報酬

無作為抽出型討議会は有償での実施が一般的ですが、南区では行政の取組に参加する機会が少ない人に、まちづくりへの関心を高めて欲しいという意味合いが強いため、無報酬としました。

ウ ファシリテーター

第4期南区区民会議の取組として、区民主体のまちづくりを推進するための「市民ファシリテーター育成研修」を平成29年7月22日(土)に開催したことから、無作為抽出型区民討議会をファシリテーター育成研修の実践の場として位置付けるとともに、当日は、運営委員である若プロメンバーがファシリテーターとして各グループの討議に参加しました。

エ グラフィックカー

当日の会議の様子をグラフィッカーが、時系列に沿ってまとめました。

※17ページ参照

(3) 討議会開催までの事務等の経過

9月 6日(水)	第5回南区区民会議にて運営委員選出
10月 4日(水)	第1回運営委員会(無作為抽出型区民討議会の討議実施(案)の検討)
11月 8日(水)	第6回南区区民会議(無作為抽出型区民討議会の討議実施(案)について)
11月 9日(木)	第2回運営委員会(討議テーマ及び副題の検討、討議方法の検討)
12月15日(金)	参加依頼通知の発送、広報さがみはら南区版に参加依頼通知について掲載
1月17日(水)	第3回運営委員会(討議方法の検討)
1月31日(水)	参加申込書・アンケート締め切り
2月 1日(木)	第4回運営委員会(役割分担等の検討)
2月 1日(木)	3,080名からの回答取りまとめ、参加者名簿の作成
2月 5日(月)	参加申込者向け決定通知書送付
2月 7日(水) ～2月15日(木)	第7回南区区民会議 書面会議開催(無作為抽出型区民討議会の討議実施(案)の承認について)
2月15日(木)	広報さがみはら南区版・市ホームページに開催周知について掲載
2月21日(水)	第5回運営委員会(最終確認)
2月25日(日)	「わいわいみんなで語ろう!Part7～南区〇〇診断～」開催

(4) 開催名称の検討

これまでの開催名称が、「わいわいみんなで語ろう！」であったことから、同様の名称を継続することによって知名度も上がると考えられるため、今回も同様にすべきであるという意見がありました。

副題である「南区〇〇診断」は、「〇〇」にそれぞれが思う言葉を入れることができ、プラス面とマイナス面のどちらも連想することができるため、区民会議及び運営委員会において検討し、決定しました。

(5) 参加依頼通知の発送

令和5年12月15日付けで、住民基本台帳から無作為に抽出した3,080名の方に、参加依頼通知と南区区民アンケートを発送しました。なお、申し込み方法は、郵送またはFAXとしました。

(6) 周知方法

参加依頼通知の発送に伴い、事前に区民へ周知するため、広報さがみはら南区版とSNSに記事を掲載しました。

(7) 参加者の決定

1月31日の申込期限までに45名の応募があり、全員を参加者としました。

(8) 個人情報の廃棄

無作為抽出型区民討議会終了後、住民基本台帳から無作為に選んだ3,080名の個人情報を適正に廃棄しました。紙媒体のリストはシュレッダー処理により、パソコン内のデータは削除処理を行い、それぞれ市職員による確認を行いました。

(9) 討議結果の取扱い

討議の結果は南区区民会議に報告し、今後の検討のための資料とします。

3 開催結果

(1) 開催日時

令和6年2月25日（日） 午後1時30分～午後4時45分

(2) 開催場所

南区合同庁舎3階 講堂

(3) 参加人数

33名（参加率 1.07%）【45名（承諾率 1.46%）】※

※ 【】内は参加を承諾した方の人数

(4) 参加者等の分析

ア 性別

男性：17名（51.5%）【21名（46.7%）】

女性：15名（45.5%）【22名（48.9%）】

無回答：1名（3.0%）【2名（4.4%）】

イ 年代別

10歳代：4名（12.1%）【7名（15.6%）】

20歳代：9名（27.3%）【12名（26.7%）】

30歳代：4名（12.1%）【6名（13.3%）】

40歳代：8名（24.2%）【10名（22.2%）】

50歳代：3名（9.1%）【4名（8.9%）】

60歳代以上：5名（15.2%）【6名（13.3%）】

ウ 地区別

大野中：6名（18.2%）【8名（17.8%）】

大野南：3名（9.1%）【5名（11.1%）】

麻溝：8名（24.2%）【9名（20.0%）】

新磯：4名（12.1%）【8名（17.8%）】

相模台：3名（9.1%）【3名（6.7%）】

相武台：3名（9.1%）【5名（11.1%）】

東林：6名（18.2%）【7名（15.6%）】

（注）端数処理により率の合計値≒100%

(5) 参加者の経緯

ア 開催日までに欠席連絡があった者：7名

イ 当日欠席者：5名

ウ 当日参加者：33名

エ 傍聴者：1名

4 討議内容

(1) 開催テーマ「地域活性化って何だろう！～どうやったらできる？～」

第7期区民会議のテーマである「地域活性化のための取組方法の検討」について、参加者にとってより身近に感じられるような表現になるように区民会議での検討において言いかえたものです。このテーマは、討議会前半で「地域活性化って何だろう！」について個人ワークで付箋に各自が思う地域活性化について書き出した後、グループ内で共通項等をグルーピングし、後半に「どうやったらできる？」という方法論に関するグループ討議に繋がられるようにという主旨で設定されたものです。また「！」や「？」を付けることで能動的な意見を引き出し、ワクワク感を創出する意味合いを加えました。

(2) 討議方法

ア 前半（45分）

(ア) アイスブレイク

グループごとのファシリテーターが提案し、初対面の固い雰囲気や緊張感をほぐし、楽しい雰囲気づくりを行いました。

(イ) 地域活性化って何だろう！について、地域活性化に必要な〇〇を各自付箋へ書き出しました。

(ウ) (イ) で書き出した付箋をグルーピングし、模造紙へ張り付けました。

イ 後半（65分）

(ア) 前半でグルーピングした付箋についてキーワードの深掘りを行いました。

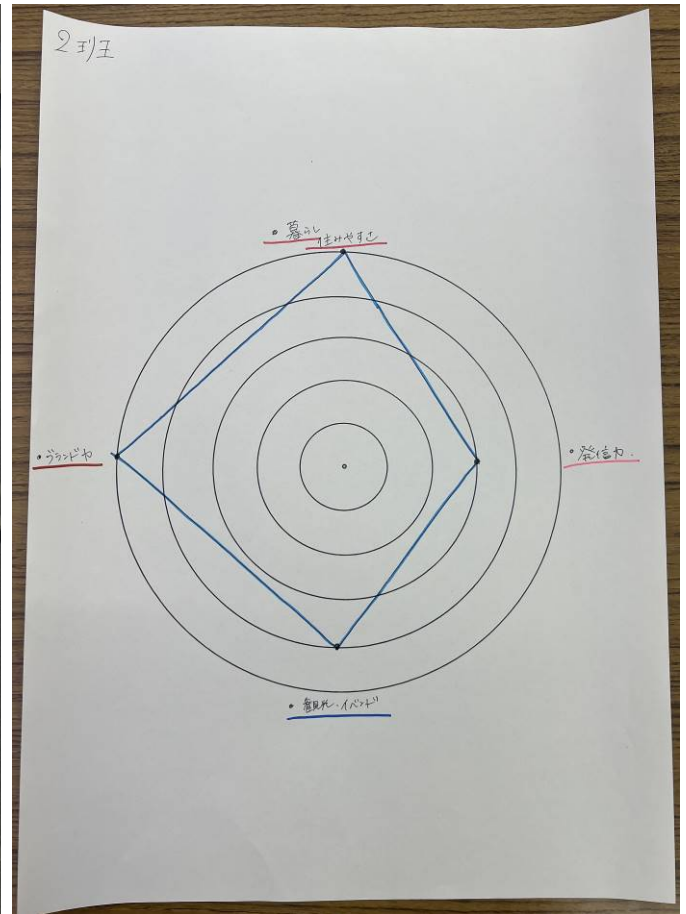
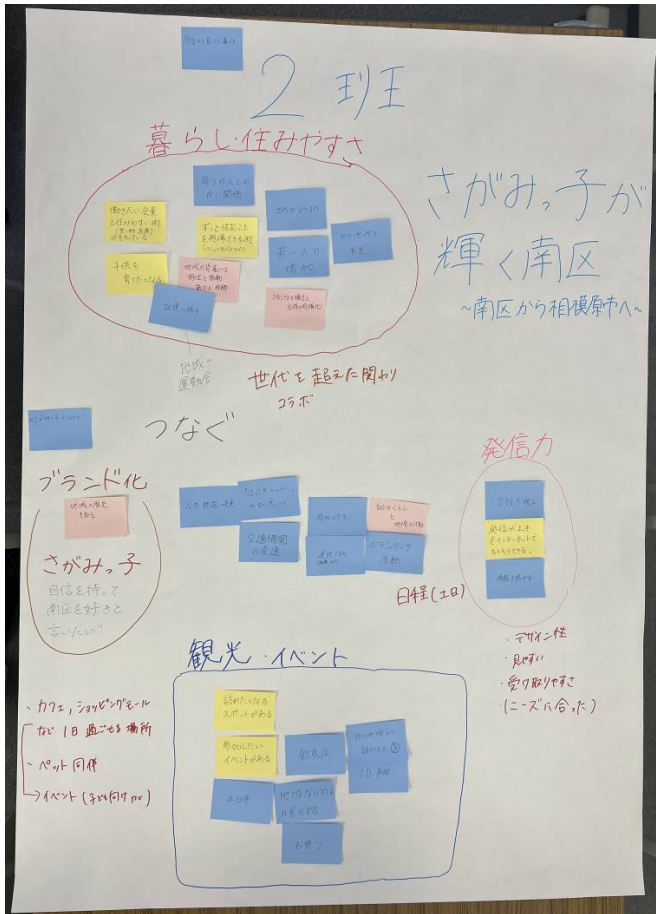
(イ) 付箋に加えて、同心円を用いて、各グループそれぞれのチャートを作成しました。

(ウ) 模造紙に各グループの意見を任意様式にまとめました。

(エ) 発表

グループごとに地域活性化のために必要な方法についての意見を発表しました。

2班



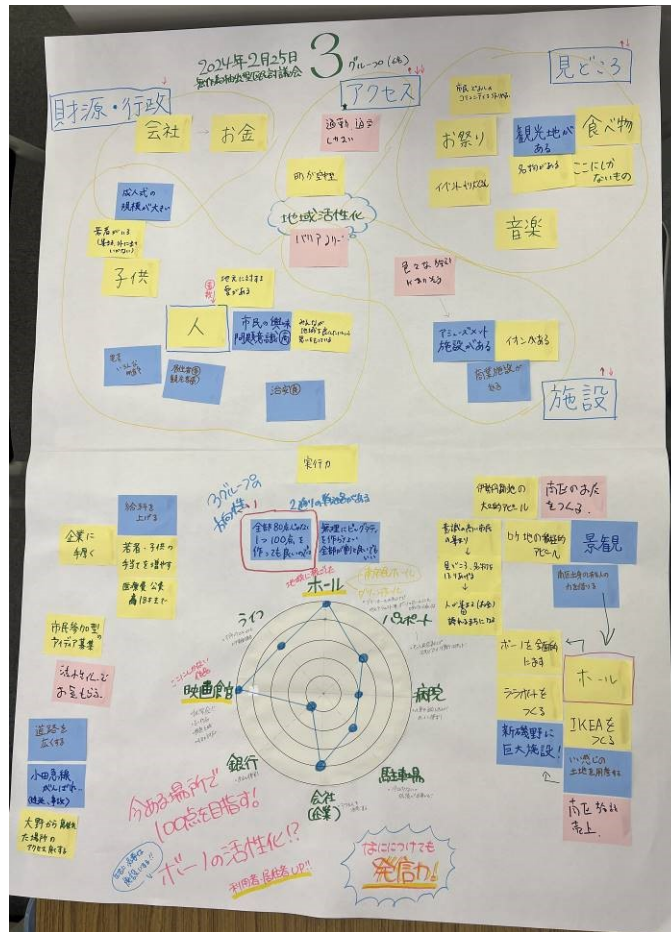
【主な発表内容】

- さがみっ子が輝く南区となるように地域活性化に必要なことのグルーピングを行った結果、「暮らし・住みやすさ・発信力・ブランド化・観光イベント」の4つに分類し、同心円を作成した。
- 暮らし・住みやすさでは、子育てや住環境が整備されているとずっと住むことを想像できる街になる。どの世代も満足できることが重要。
- ブランド化では、南区といえば〇〇!!というような特徴があるといい。そしてそれが外から見たときに認知されるような発信が必要。ブランド化をするにあたっては、地域の歴史を知ること大切。
- 観光やイベントでは、訪れたいスポットや参加したいイベントがあったりすると他の地域から訪れる人が増加するのではないか。
- 発信力では、市HPや各SNSのデザイン性や見やすさをニーズに合ったものにするとより情報が得やすいとの結果となった。

【発表から伺えるヒント】

- 4つのグルーピングのうち不足している部分はSNSでの発信力である。情報を届ける人や年代などにより発信方法を工夫してより効果的に情報を届ける必要があるのではないか。

3班



【主な発表内容】

- 地域活性化について、「財源、行政・アクセス・見どころ・施設」の4つにグルーピングすることができた。
- 今ある場所で100点を目指す。ポーノが生活に必要な施設になることで地域が活性化し、利用者や居住者が増える。
⇒全部が100点でなくても1つ100点があると強みになる。
- なににつけても発信力が大切

【発表から伺えるヒント】

- 全部が100点になるのは難しいことなので1つの強みを見つけて100点を目指す。その強みを発信していくことで地域活性化に繋がっていく。またその強みが生活に直結したものであればより相模大野の発展につながる。

【主な発表内容】

- ・地域活性化についての個人ワークから出た課題を同心円で可視化して課題を抽出した。

①地域ごとの課題

⇒7地区ごとの課題について（地価・イベント・治安・世代間交流・交通アクセス・買い物物の利便性）の6つにグルーピングすることができ、交流と住環境の関係性が見えてきた。

②運動と住環境（エレベーター）

⇒団地ではエレベーターがないことで交流が少なくなっている。運動と交流が直接的に関係していることが分かった。

③趣味と交流

⇒運動から趣味（好きなこと）での体力づくりに発展。アウトドアなものに限らずインドアでも交流が増えることで結果的に交流が増えるのではないかと。

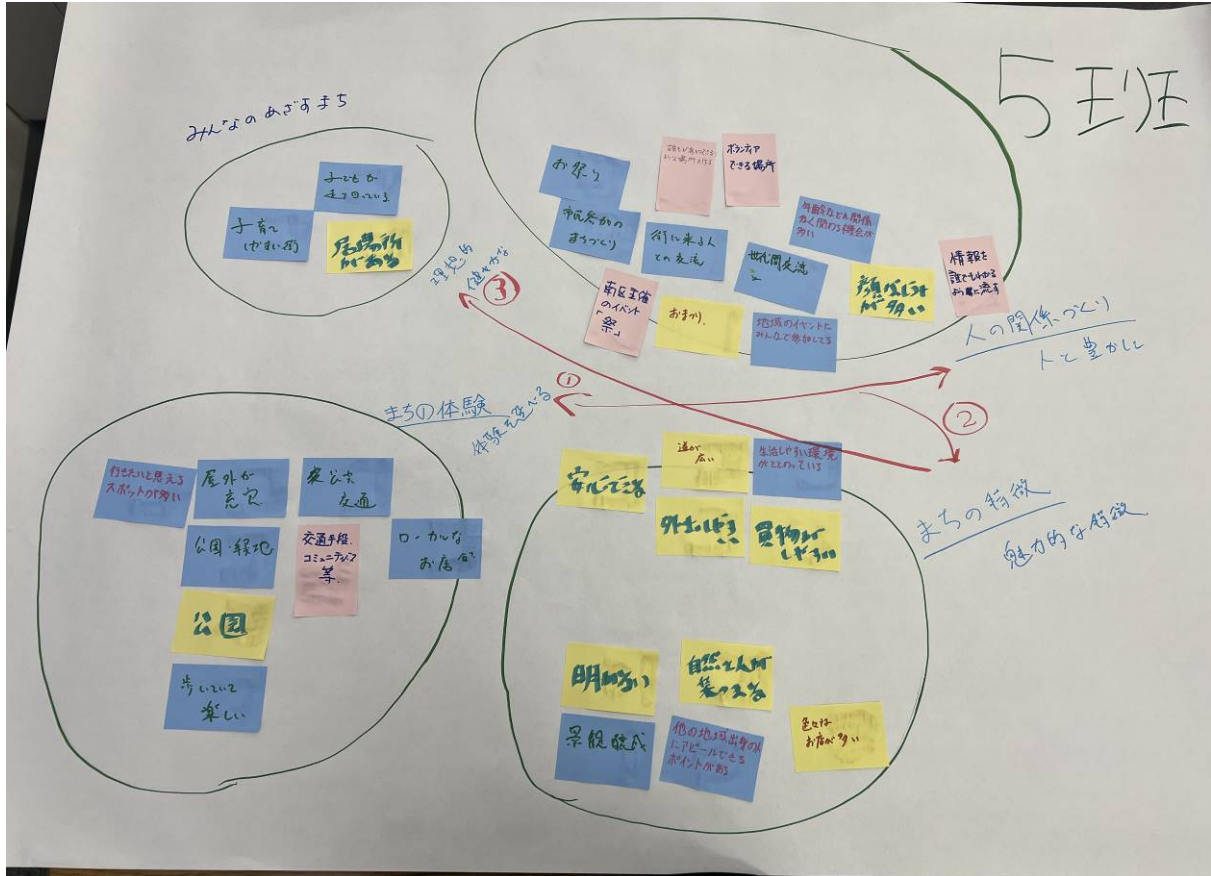
④世代と価値観

⇒世代間の価値観にギャップがあり交流が離れつつある。しかし必ずどこかに共通の接点があり地道にそれを広げていくことが大事。「理解できない」と諦めてはいけない。

【発表から伺えるヒント】

- ・世代間交流をすることでギャップが減少する。
- ・世代間に価値観にもギャップがあるが、どの世代にもどこかにある共通の接点を見つけることで交流に繋げることができる。お互いの価値観等を交流前に諦めてはいけない。

5班



【主な発表内容】

- ①人の関係づくり（人と豊かに）⇔まちの体験（体験を選べる）
⇒ボランティアやお祭りで世代間交流を行うと人間関係づくりに繋がる。またその街が公園などの屋外施設が充実していると街を歩いても楽しい環境になるので活性化につながる。
- ②まちの特徴（魅力的な特徴）
⇒道が広い、安心して外出できる、買い物しやすい、景観醸造、他の地域の人にアピールできるポイントがあると自然と人が集まる。
- ③理想的・健やかな
⇒どの世代にとってもこの街が自分の居場所であると実感する地域づくりが必要。子育てがしやすく、子どもたちが走り回っているようなみんなの目指す街になる。

【発表から伺えるヒント】

- ・地域での人の関係づくりが重要。地域のイベント等で世代間交流を行うことにより活性化につながり、より魅力的な街になることで、住んでいるどの世代にとっても居場所ができる。
- ・子育てがしやすい活気ある街にすることが地域活性化のために必要。

6班

交通網

バス利用が不便
 交通も加増不便 (公共交通機関)
 小田急しかない
 自転車の街
 交通は便利
 駐輪場が3割の無料
 相模大野駅前
 自転車の駐輪問題
 不便! 何もない!
 都会田舎

自然が残り残っている。
 人口が? 高齢化が激しい
 自然が残り残っている。
 高齢者のコミュニティが乏しい
 大野市の街の活気が減っている

伊勢丹がなくなった不便 (スクラボロー)
 ビアガーデン屋台 → 駅前広場を有効活用したい

PTA
 女子協会

自治会

町田に近い
 パチンコが多い! (駅前3軒)
 大野地区の大規模再開発
 駅前にも映画館やデパートの誘引を!!
 相模大野をより生活に密着
 地域に現在住んでいる人の声を聞いて欲しい。
 学業のイベントが少なくていい!
 学生と交わることが多い
 相模大野周辺の自転車の問題が解決して欲しい。(他地域でも解決すべき)

映画館
 了ロード
 子育て支援
 相模大野

地域別 - 交通の満足度 -

バス
 自転車
 電車
 満足度(高)

相模 相南 東大沼 活木

解決する順番

地域関係強化 満足している
 自転車問題
 歩行者と自転車の衝突
 駅前広場の活用方法を再検討
 駅前広場のイベント
 イベントなど週末を大野で過ごす魅力アップ
 住人の関係

【主な発表内容】

- 若者の集まる場所がない。映画館があると他市に流出しないのではないか。
- グループ内で地域別交通の満足度について、同心円を使用してバス・自転車・電車の3つについてチャートを作成したところ、電車の満足度が1番高く、バスと自転車は同等の満足感であった。
- 地域関係なく共通課題である自転車問題。相模大野は自転車の街だと思うが駐輪場が足りていない、またトラックなどの大型車の通行も多いため危険。
- 相模大野をよりベッドタウンではなく、「生活」に密着した魅力ある街に。

【発表から伺えるヒント】

- 相模大野の魅力についての発信が不足している。
- 交通の便は良いが、駅周辺に遊戯施設が多く、若者や子育て世代が利用するには不便。

6 討議結果から伺えるヒントのまとめ

☆無作為抽出型区民討議会での討議結果資料を、区民会議の検討資料とする視点から、1～6班の発表から伺える「地域活性化のための取組方法の検討」についてのヒントを次のとおり4項目にまとめました。

1 「何を活性化するとよいのか」

- 南区にある7地区固有の課題に着目し、活性化に向けた取組を行う。
⇒地価、イベント種類や数、治安、世代間交流、交通アクセス、買い物の利便性
- 経済・人（コミュニティ）や物の活性化
⇒経済が発展すると人や物も自然と豊かになり、地域全体の活性化が見込める。
（例）経済の活性化のために商業施設の誘致
- 各イベント（地域イベント、観光イベント、ボランティア活動）の活性化
⇒イベントを活性化することで暮らしやすさが豊かになる。
⇒地域イベントはや参加のハードルが低く、子どもも含めて参加できるものがよい。
- 交通関連について
⇒自転車利用者の数に対して、駐輪場が不足しているので解消した方がよい。
⇒抜け道になっている道が多数あるので、歩道を整備して方がよい。

2 「魅力や強みの発掘」

- 「南区の〇〇」といったブランド化できるものを地域の歴史を踏まえて模索する。
⇒南区といったら〇〇というようなものがあると認知されるきっかけになる。
週末を南区で過ごすことができる場所やイベントがあるとよい。
⇒カフェやショッピングモールなどがあると魅力的
⇒ペット同伴可だと外出の機会にもつながる。
- 7地区ごとの課題解決および魅力発信
⇒地区ごとに課題があるように、魅力もそれぞれある。地区ごとのお祭りやイベントなど魅力として発信していくと繋がりが生まれる。

3 「交流場所・機会の創出」

- 地域での交流、世代間交流ができる機会や場所が必要
⇒気軽に参加しやすいイベントやお祭りなどが身近にあるとよい。世代のギャップはあるかもしれないが世代間交流を生み、交流を続けることで共通の接点を発見することにつながり、さらなる交流に繋げることができる。
（例）運動や趣味などアウトドアなものだけではなく、インドアも含めて検討

■若者や子育て世代が利用できる施設の拡充等

⇒駅の利便性はよいにも関わらず、ベッドタウン化しているので1つの街としての魅力を創出する必要がある。

⇒他市に人が流れしまっているのを、相模大野をより生活に密着した、若者や子育て世代が利用する街になるような街づくりをする必要がある。

(例) 映画館、プラネタリウム、お祭り

■他市からの流入にも力を注ぐ

⇒観光スポットや参加したくなるようなイベントがあると他市にPRすることもでき、他地域から訪れる人が増加するきっかけになる。

(例) 映えスポットとなるようなオシャレなカフェ、子ども向けのイベント

4 「情報発信を工夫する」

■SNSでの発信に力を入れる。

⇒情報を届けたい人や年代により発信方法を工夫してより効率的にする。

⇒デザイン性や見やすさをニーズにあわせて工夫する。

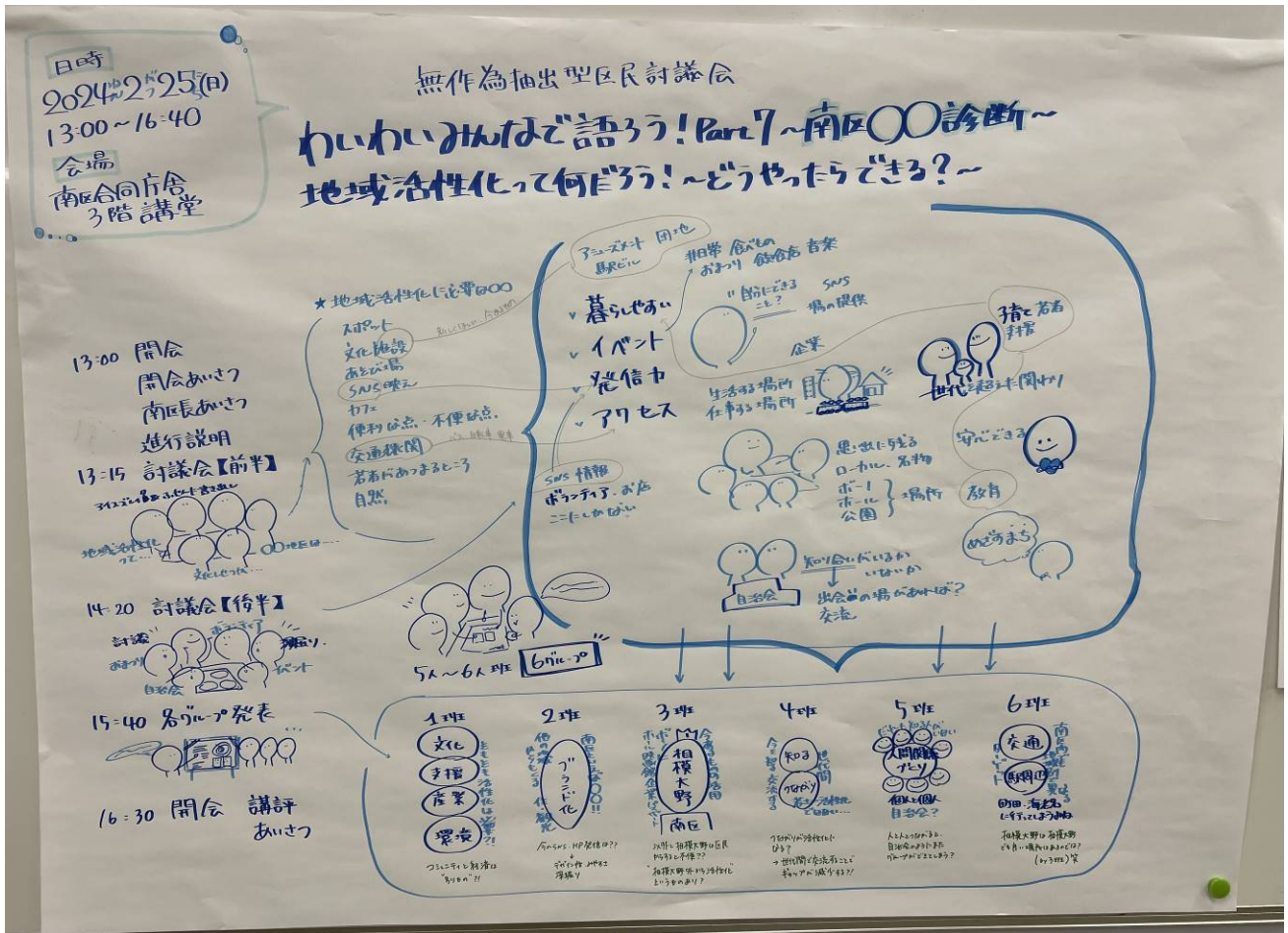
■多くの人が集まる場所で自然と人の目につく方法で情報発信を行う。

⇒相模大野の駅の広告サイネージなど自然と目につく場所・方法により情報発信を行う。

■観光スポットやイベント情報について情報発信する。

⇒他地域から訪れる人を増やす。平日のイベントだと参加が難しい人もいるので土日のイベント情報も併せてお知らせする。

7 グラフィックターの作品



8 無作為抽出型区民討議会の開催に要した経費

(1) 郵便料

- 参加依頼通知
- 参加承諾返信用封筒（アンケート同封）
- 参加決定通知

（令和5年12月分 267,976円）

（令和6年1月分 7,904円）

（令和6年2月分 624円）

小計…276,504円 (①)

(2) 保険加入費

- 傷害保険
- 賠償責任保険

小計…9,950円 (②)

(3) 消耗品費

- 強粘着付箋
- 模造紙
- プロッキー

小計…12,374円 (③)

(4) 委託費（南区若者参加プロジェクト実行委員会への事業委託費）

- 実行委員会委員賄費
- 参加者賄費

小計…9,966円 (④)

(5) 合計

①+②+③+④=308,794円

アンケート実施概要

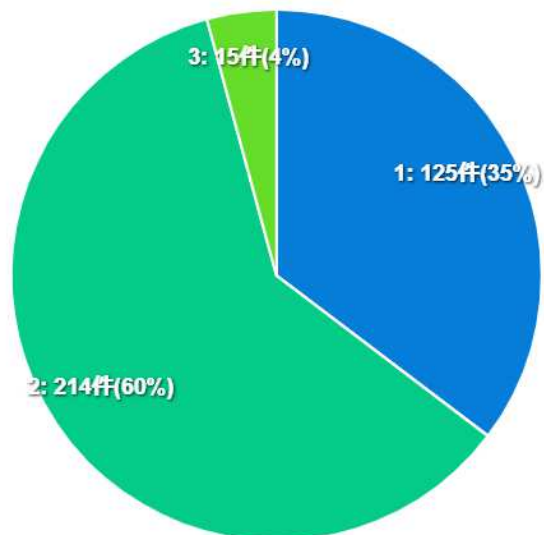
- (1) 対象 南区区内 16歳～24歳 1,600人
 25歳～49歳 1,080人
 50歳以上 400人
 合計 3,080人
- (2) 回答者数 354人
- (3) 回答率 11.4%
- (4) 実施期間 令和5年12月15日から令和6年1月31日まで

各設問と回答状況及び結果概要

問1 あなたの性別を教えてください。(回答は1つ)

1 男性 2 女性 3 回答しない

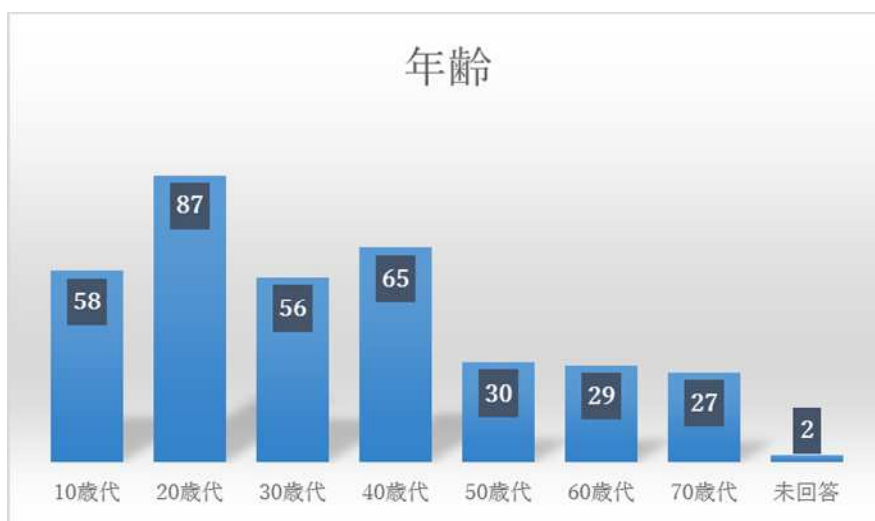
選択肢	回答数	回答分布
1	125	35.3%
2	214	60.4%
3	15	4.2%
合計	354	100.0%



問2 あなたの年齢を教えてください。(回答は1つ)

- 1 10歳代 2 20歳代 3 30歳代 4 40歳代
5 50歳代 6 60歳代 7 70歳代以上

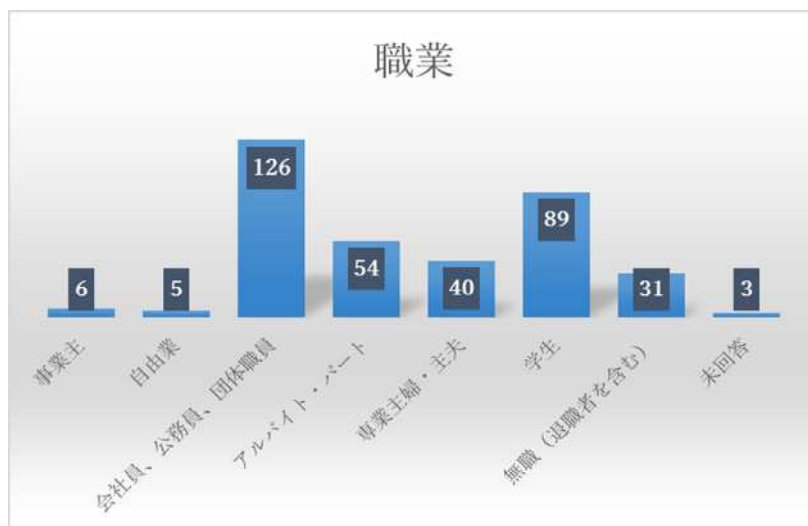
選択肢	回答数	回答分布
1	58	16.4%
2	87	24.6%
3	56	15.8%
4	65	18.4%
5	30	8.5%
6	29	8.2%
7	27	7.6%
8	2	0.6%
合計	354	100.0%



問3 あなたの職業等を教えてください。(複数ある方は主なものを1つ)

- 1 事業主 2 自由業 3 会社員、公務員、団体職員 4 アルバイト・パート
5 専業主婦・主夫 6 学生 7 無職(退職を含む)

選択肢	回答数	回答分布
1	6	1.7%
2	5	1.4%
3	126	35.6%
4	54	15.3%
5	40	11.3%
6	89	25.1%
7	31	8.8%
未回答	3	0.8%
合計	354	100.0%



問4 あなたの世帯構成を教えてください。

- 1 1人暮らし 2 配偶者またはパートナーと二人暮らし 3 2世代同居
4 3世代同居 5 親子以外の親族のみと同居（兄弟等） 6 その他

選択肢	回答数	回答分布
1	41	11.6%
2	64	18.1%
3	209	59.0%
4	23	6.5%
5	8	2.3%
6	2	0.6%
未回答	7	2.0%
合計	354	100.0%



その他記入事項
施設入所中

問5 あなたは、今子育てをしていますか。（している場合は、最年少の子を選んでください）

- 1 未就学児 2 小学生 3 中学生 4 高校生 5 大学生 6 専門学生
6 専門学生 7 短大生 8 子育てはしていない 9 未回答

選択肢	回答数	回答分布
1	31	8.8%
2	31	8.8%
3	9	2.5%
4	14	4.0%
5	8	2.3%
6	1	0.3%
7	0	0.0%
8	251	70.9%
未回答	9	2.5%
合計	354	100.0%



問6 地域活動に抱くイメージとしてあてはまるもの全てを選んでください。

- 1 交流や繋がりが得られる 2 やりがいが生まれる 3 楽しい
 4 知識や経験が増える 5 定期的に参加する必要がある 6 人間関係が面倒
 7 始めるきっかけがない 8 仕事等との両立が難しい
 9 すでにコミュニティが出来上がっているため、入りにくい 10 分からない
 11 その他 12 未回答

選択肢	回答数	回答割合
1	192	54.2%
2	47	13.3%
3	41	11.6%
4	97	27.4%
5	116	32.8%
6	120	33.9%
7	94	26.6%
8	139	39.3%
9	98	27.7%
10	36	10.2%
11	9	2.5%
未回答	2	0.6%
合計	354	100%



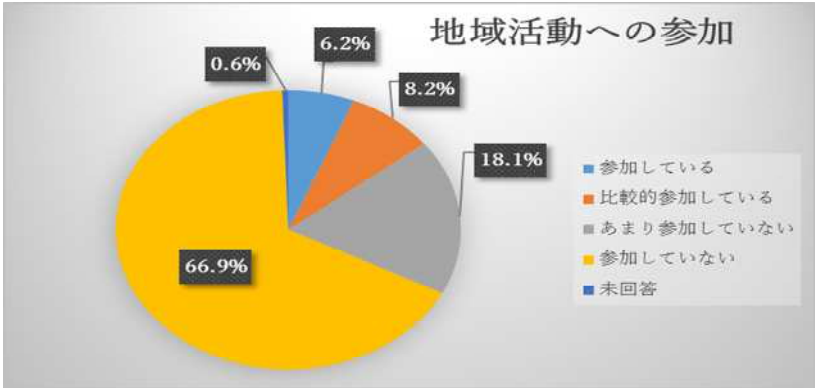
その他記入事項

- 身体的に自信がない
- ずっと住んでいる老人ばかりが楽しんでいて、若い人はつまらない
- 地域活動の定義が広いので、イメージが弱い
- 体力的に活動が無理
- 高齢者が多そう
- 子どもが小さく幼稚園や保育園にも入っていないため離れられず、参加は難しい
- 土日とか固定の曜日だと仕事で予定が合わない
- 半強制的な感じのもの
- 自治会、運営方法が旧態依然としている。今時の人にも活動しやすく改革を望む

問7 あなたは、地域活動に参加していますか。(運営側等での参加のみ)

- 1 参加している 2 比較的参加している 3 あまり参加していない
4 参加していない 5 未回答

選択肢	回答数	回答分布
1	22	6.2%
2	29	8.2%
3	64	18.1%
4	237	66.9%
未回答	2	0.6%
合計	354	100.0%

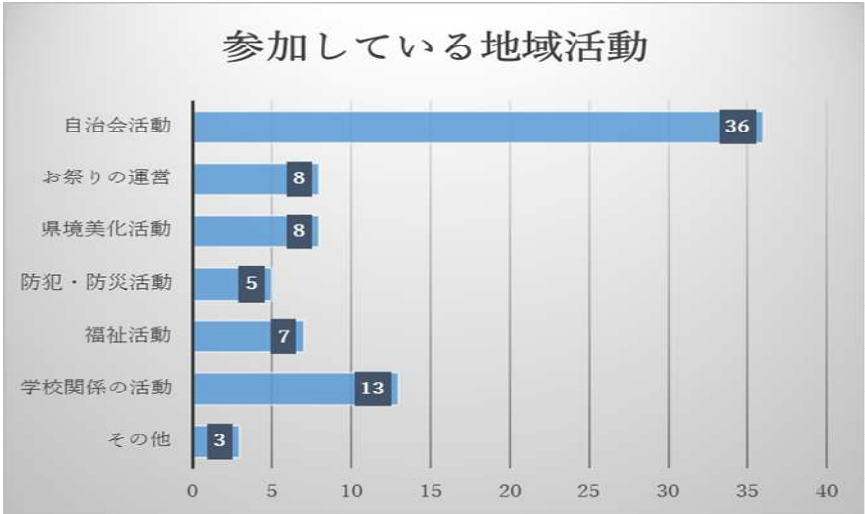


問8 あなたは、どのような地域活動に参加していますか。(2~5は自治会活動を除く)

あてはまるものを全て選んでください。(問7で、参加している、比較的参加していると選んだ方のみ対象)

- 1 自治会活動 2 お祭りの運営 3 環境美化活動
4 防犯・防災活動 5 福祉活動 6 学校関係(PTAなど)の活動
7 その他

選択肢	回答数	回答割合
1	36	70.6%
2	8	15.7%
3	8	15.7%
4	5	9.8%
5	7	13.7%
6	13	25.5%
7	3	5.9%
未回答	0	0%
合計	51	100.0%

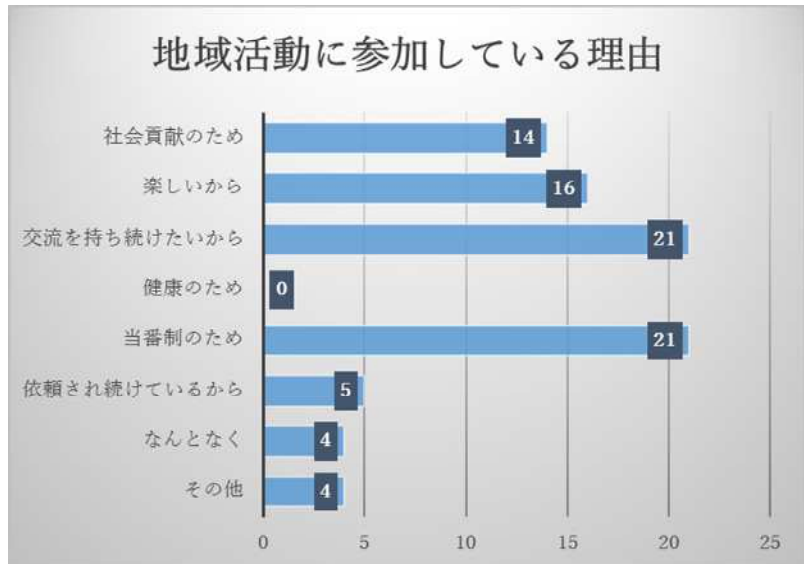


その他記入事項
 ジュニアリーダー
 包括支援センター関係の交流の場に参加
 森林活動ボランティア、RUN 活

問9 あなたが、地域活動に参加している理由としてあてはまるものを全て選んでください。

- 1 社会貢献のため 2 楽しいから 3 交流を持ち続けたいから
 4 健康のため 5 当番制のため 6 依頼され続けている
 7 なんとなく 8 その他

選択肢	回答数	回答割合
1	14	27.5%
2	16	31.4%
3	21	41.2%
4	0	0%
5	21	41.2%
6	5	9.8%
7	4	7.8%
8	4	7.8%
未回答	0	0%
合計	51	100.0%

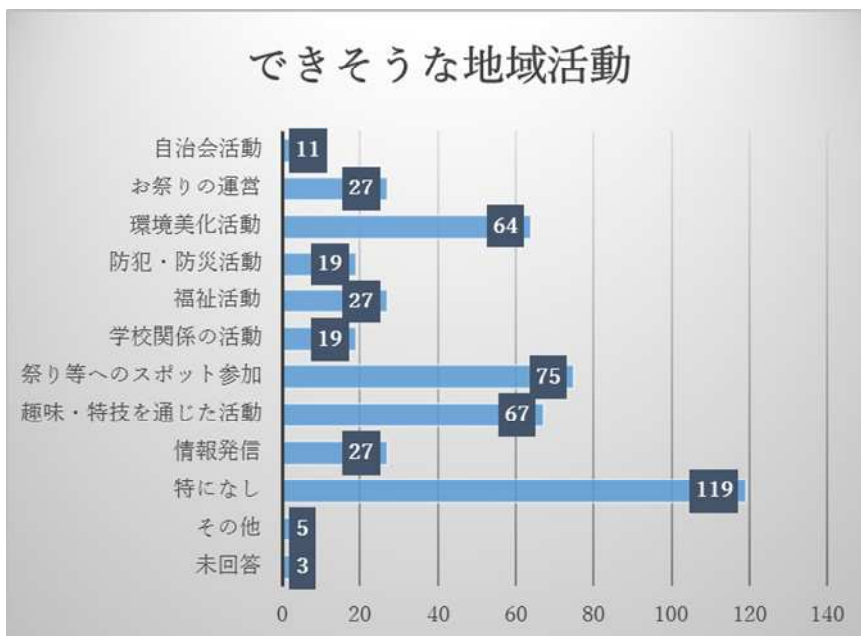


その他記入事項
 1人暮らしで老後(終活)の人間関係作り
 学生研究のため
 自治会のメンバーとして入会していると、何か起きたときに安心できる気がします

問10 以下の地域活動の例の内、これならできそうだ(やってみたい)と思う活動としてあてはまるものを全てを選んでください。

- 1 自治会活動 2 お祭りの運営 3 環境美化活動 4 防犯・防災活動
 5 福祉活動 6 学校関係(PTAなど)の活動 7 祭りや行事へのスポット参加
 8 趣味や特技を活かした活動 9 地域の情報発信をする 10 特になし
 11 その他

選択肢	回答数	回答割合
1	11	3.6%
2	27	8.9%
3	64	21.1%
4	19	6.3%
5	27	8.9%
6	19	6.3%
7	75	24.8%
8	67	22.1%
9	27	8.9%
10	119	39.3%
11	5	1.7%
未回答	3	1.0%
合計	303	100.0%



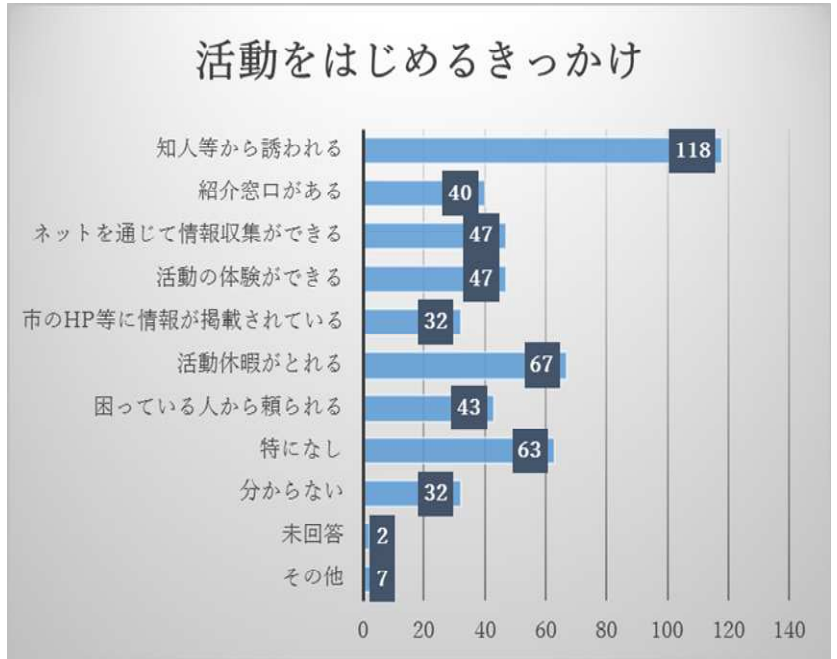
その他記入事項

- 子どもが同伴でも良いこと
- フリーマーケットの手伝い
- 相模原市の観光の促進(県内外から人を呼べる市へ)
- グループで遊ぶイベントや話し合い活動などの地域の人々の交流活動
- 子育てに関する活動

問11 あなたは、どのようなきっかけがあれば、地域活動に参加しようと思えますか。
 あてはまるものを全て選んでください。

- 1 知人、近所の人などから誘われる 2 活動を紹介してくれる窓口がある
 3 インターネットを通じて情報収集や相談ができる 4 活動の体験ができる
 5 市のHP等に情報が掲載されている 6 活動のために休暇をとることができる
 7 困っている人から頼られる 8 特になし 9 分からない 10 その他

選択肢	回答数	回答分布
1	118	38.9%
2	40	13.2%
3	47	15.5%
4	47	15.5%
5	32	10.6%
6	67	22.1%
7	43	14.2%
8	63	20.8%
9	32	10.6%
10	7	2.3%
未回答	2	0.7%
合計	303	100.0%



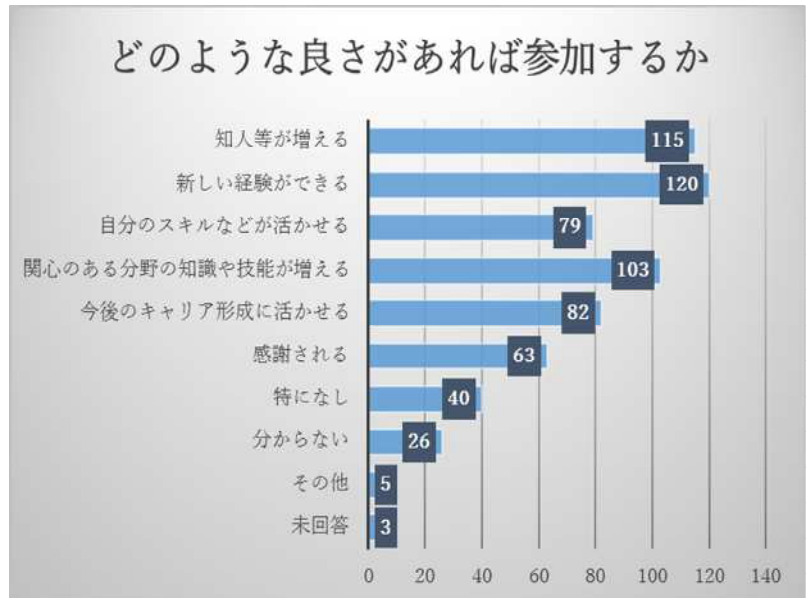
その他記入事項

- 市内だけでなく、市外への情報発信、相模原をしってもらう謝礼がある
- 自分が参加したい活動に自分から
- 小さい子どもと一緒に回りの迷惑にならずに参加できる
- 郵便や回覧板による招待(自分からリーチして参加するのは難しいため)
- インフルエンサーが宣伝する
- お金が出る、有給休暇を使用しなくて済む

問12 あなたは、どのような良さが感じられれば、地域活動に参加しようと思えますか。

- 1 知人、友人が増える 2 新しい経験ができる 3 自分のスキルなどが活かせる
 4 関心のある分野の知識や技能が増える 5 今後のキャリア形成に活かせる
 6 活動することで感謝される 7 特になし 8 分からない 9 その他

選択肢	回答数	回答分布
1	115	38.0%
2	120	39.6%
3	79	26.1%
4	103	34.0%
5	82	27.1%
6	63	20.8%
7	40	13.2%
8	26	8.6%
9	5	1.7%
未回答	3	1.7%
合計	303	100.0%



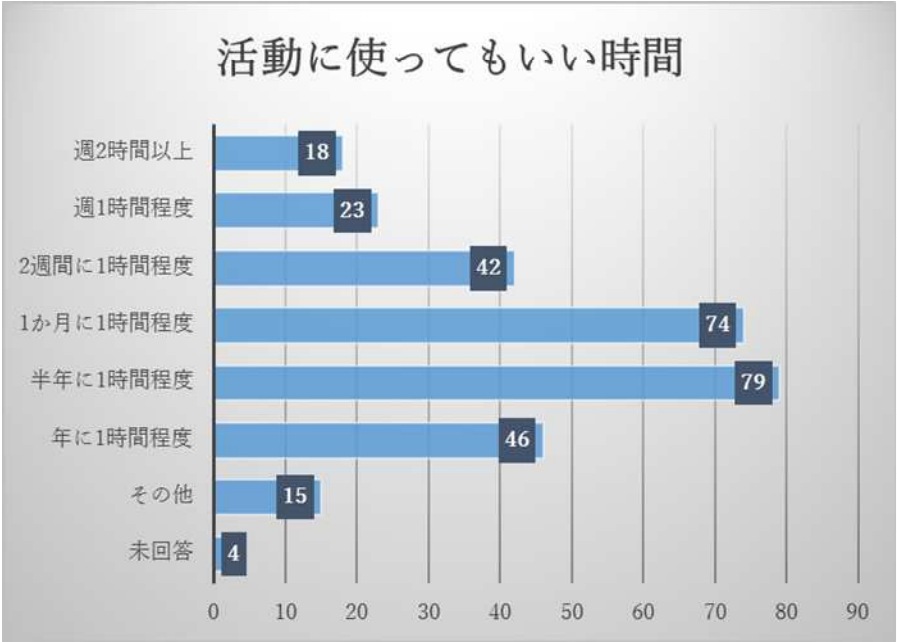
その他記入事項

- 粗品がもらえる
- 地域活動から市全体のアピールに繋がればよい
- 義務や強制のないもの
- 活動の結果が自分に返ってくる
- 運営する側も楽しく、負担過多は嫌

問13 あなたが地域活動に使ってもいいと思える時間はどれぐらいですか。

- 1 1週間に2時間以上 2 1週間に1時間程度 3 2週間に1時間程度
 4 1か月に1時間程度 5 半年に1時間程度 6 年に1時間程度 7 その他

選択肢	回答数	回答分布
1	18	5.9%
2	23	7.6%
3	42	13.9%
4	74	24.4%
5	79	26.1%
6	46	15.2%
7	15	5.0%
未回答	4	1.3%
合計	303	100.0%



その他記入事項

- 活動内容によって使用する時間が異なる
- なし(計3名)
- 仕事をしている
- 分からない
- 謝礼があれば1週間に2時間以上、謝礼なしで2週間に1時間程度
- 2週間に2時間か1か月に2時間程度がいいと感じています
- 地域活動に参加したくない
- 有給休暇を使用せず時給が出て仕事という扱いになるのであれば、週3時間程度
- 学生であり、今一時的に住んでいるだけなので地域の活動に時間を使いたいとは思いません
- 自分の都合に合わせたタイミング
- 現在は仕事や介護で手一杯で時間を捻出することが難しい